							(1/0	
評価項目		平価項目	評価の視点	配点	得 点 率 標準 劣	得点	評 価 細 目	
	計圖棋日		H I INT -> DOWN	HUM	1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	14 7//	н г - приг луч 1-ч	
		提案力改善力	業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n =1⇒「0.8」 n =2⇒「1.0」		□ ・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。 ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注)	
			業務遂行段階における提案	40	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注)	
			業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。	
			業務内容等改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 "=1⇒「0.8」 "=2⇒「1.0」		□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。	
			小 計	100	①			
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	目的と内容の 理解	20	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rceil$ η = $1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ η = $2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ η = $3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ η = $4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$		□ ・業務計画書に必要事項が記載されていた。 □ ・当該業務の目的、内容が理解されていた。 □ ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 □ ・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理	
			必要情報の 把握	20	評価細目 f_{xy} /数= 0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ n = 1 \Rightarrow $\lceil 0.4 \rfloor$ n = 2 \Rightarrow $\lceil 0.6 \rfloor$ n = 3 \Rightarrow $\lceil 0.8 \rfloor$ n = 4 \Rightarrow $\lceil 1.0 \rfloor$		□ 解されていた。 □ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 □ ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 □ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。	
			検討項目検討手法	20	評価細目 $f_{27}/5$ 数= $0 \Rightarrow [0.2]$ $n = 1 \Rightarrow [0.4]$ $n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8]$ $n = 4 \Rightarrow [1.0]$		□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □ ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □ ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注)	
			打ち合わせ 資料の内容	20	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ n =1⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ n =2⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ n =3⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ n =4⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$		□・打ち合わせ資料に大きなミスがなかった。 □・打ち合わせ資料に、業務の各段階で必要とされる内容が盛り込まれていた。 □・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題解決策や提案等が適切に盛り込まれていた。 □・適用する諸基準類のない業務、若しくは難易度の高い業務等を進めるにあたり、的確な理論展開による説明が盛り込まれていた。	
			十分な技術力	20	評価細目 $f_{27}/7$ 数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ n =1 \Rightarrow $\lceil 0.4 \rfloor$ n =2 \Rightarrow $\lceil 0.6 \rfloor$ n =3 \Rightarrow $\lceil 0.8 \rfloor$ n =4 \Rightarrow $\lceil 1.0 \rfloor$		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示された事項行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示された事項できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。 は	
			小 計	100	①			

	評価項目		評価の視点	配点	得点 点 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
		施工時への配慮 【 施工計画 なし】 ※選択	施工に関する 一般的な知識	60	評価細目 f_{xy} /数= 0 \Rightarrow 0 , 2] y = 1 \Rightarrow 0 , 4] y = 2 \Rightarrow 0 , 6] y = 3 \Rightarrow 0 , 8] y = 4 \Rightarrow 1 , 0]		・設計において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・図面作成または工事費積算において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法または施工手順について、一般的な留意すべき点を理解していた。 ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
			施工条件等の 把握	40	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow 0.2] n =1 \Rightarrow 0.4] n =2 \Rightarrow 0.6] n =3 \Rightarrow 0.8] n =4 \Rightarrow 0.1 0.1		 □・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 □・当該地域の地理条件、環境条件等を把握していた。 □・監督員の施工に係わる要求事項を把握していた。 □・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。
			小 計	100	①		
プロ	専門技術力	施工時への配慮 【施工計画 あり】 ※選択	施工に関する 一般的な知識	40	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow f_0 . 2」 $n = 1 \Rightarrow f_0$. 4」 $n = 2 \Rightarrow f_0$. 6」 $n = 3 \Rightarrow f_0$. 8」 $n = 4 \Rightarrow f_1$. 0」		・設計において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・図面作成または工事費積算において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法または施工手順について、一般的な留意すべき点を理解していた。 ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
セス評価			施工条件等の 把握	30	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 □ ・当該地域の地理条件、環境条件等を把握していた。 □ ・監督員の施工に係わる要求事項を把握していた。 ・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。
			施工計画 (施工方法、 仮設備計画)	30	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ n = $1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ n = $2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ n = $3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ n = $4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・必要事項を記載した施工計画が提案された。 □ ・施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案された。 □ ・工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備計画が提案された。 □ 計画が提案された。 □ ・当該工事箇所における施工上の留意事項が、重要度別かつ施工段階毎に適切に整理する提案がなされた。
		コスト把握能力 (設計業務を対象 に評定する。)	小 計	100	1		
			コスト 把握能力	100	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow [0.2] n =1 \Rightarrow [0.4] n =2 \Rightarrow [0.6] n =3 \Rightarrow [0.8] n =4 \Rightarrow [1.0]		 ・工事費に関するコスト把握能力を有していた。 ・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。 ・コスト縮減に係わる提案があった。 ・ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念頭においたコスト縮減に係わる提案があった。
			小 計	100	①		

		.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	コニョ 貝川バ				(3/3)
	評価項目		評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
		工程管理能力	実施手順 工程計画	30	評価細目fェック数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・契約書等に記載された期限以内 (ex. 契約締結後14日以内)に業務工程表が提出され、速やかに業務の着手がなされた。 ・業務実施方針及び工程表には、設計図書に示された事項が適切に反映されていた。 ・業務実施方針又は詳細な工程表には、業務実施上のポイントとなる工程目標等が具体的に示されていた。 ・作業(調査、検討、設計)項目間の実施手順等が適切に計画されていた。
			実施体制	10	評価細目fェック数=0⇒ $\lceil 0.2 \rceil$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$		・契約図書に基づき、管理技術者等通知書及び業務計画書が提出された。 ・業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務が履行された。 ・配置された担当技術者若しくは照査技術者は、業務内容に応じた技術者が配置され、適正に履行された。 ・業務計画書(業務組織計画)に示された実施体制は、本業務の履行に対して十分な体制であった。
			打合せ内容の 理解、記録	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」		□・打合せ記録簿が、打合せ後速やかに提出された。 □ 打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映し、打合せ後の進め方や懸案事項等が的確に整理されていた。 □ 受注者内(再委託先等を含む)で意志疎通がなされ、指示や打ち合わせ事項が、その後の資料等に適切に反映されていた。 □ 打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打合せ内容が理解された(打合せ後に不明点等に対する問い合わせ等を発注者に行うことはなかった)。
セスシ	管理技術力		工程管理	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃 =1⇒「0.4」 〃 =2⇒「0.6」 〃 =3⇒「0.8」 〃 =4⇒「1.0」		・指示や注意を行う必要のあるような工程の遅れや、履行期限内に納品されない等はなかった。 □ 説計図書に基づく作業状況の報告、履行報告等を適切な時期に提出していた。 □ ・関連する他の業務や工事等に影響を及ぼすことなく完了できた。 □ 履行中のポイントとなる工程目標等も含め、全体を通して工程計画どおり完了できた。
			小 計	100	①		
		品質管理能力 概略設計 予備設計	ミス防止の 実施	100	評価細目チュック数=0⇒「0.6」 n =1⇒「0.8」 n =2⇒「1.0」		・チェックリスト等の品質管理の記録により、品質の管理がされたことを確認できた。 ・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行わ □ れ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. IS09001等の認証取得状況と成果への反映の確認)
			小 計	100	1		
		品質管理能力	ミス防止の 実施	100	評価細目 f_{xy} /数= 0 ⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ n = 1 ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ n = 2 ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ n = 3 ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ n = 4 ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$		□ ・業務計画書等に、照査体制、照査計画等が記載されていた。 □ 業務計画書等に記載の照査担当者による照査が実施されたことが確認できた。 □ 照査報告書等の品質管理の記録により、照査が実施されたことを確認できた。 □ 品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行われ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. IS09001等の認証取得状況と成果への反映の確認)
			小 計	100	①		(CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF
			- 4 HI	100			

					得 点 率		
	評価項目		評価の視点	配点	優 標準 劣	得点	評 価 細 目
	管理技術力	迅速性 弾力性 調整能力	当初計画の 変更	40	1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 評価細目 f_{xy} ク数=0⇒ f_0 .6」 n =1⇒ f_0 .8」 =2⇒ f_1 .0」		・業務遂行中に生じた、当初工程計画や業務内容の変更要請、あるいは監督員の指示等に迅速に対応した。 ・その結果生じた検討内容が特に優れていた。
			関連事業者間 の調整	30	評価細目fェック数=0⇒「0.6」 "=1⇒「0.8」 "=2⇒「1.0」		 ・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、関連 事業者間の調整に係わる提案資料が作成された。 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
			地元住民との 合意形成	30	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n =1⇒ [0.8] n =2⇒ [1.0]		・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、地元 住民等との合意形成(円滑な業務履行の確保に資する地元等への配慮等を含む)に係わる提案資料が作成された。 ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
			小 計	100	①		
プロセス評価		説明力 協調性 プレゼンテーション力	理解しやすい 説明 プレゼンテーション (資料)	30	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow [0.2]$ n = $1 \Rightarrow [0.4]$ n = $2 \Rightarrow [0.6]$ n = $3 \Rightarrow [0.8]$ n = $4 \Rightarrow [1.0]$		 ・日時、→場所、→参加者、→目次、→頁等が明記された資料となっていた。 ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。
	コミュニケーションカ		理解しやすい 説明 プレゼンテーション (対応)	30	評価細目fェック数=0⇒ $\lceil 0.2 \rceil$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$		□・打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 □ 管間に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答期限が提示された。 □ ・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。
			説明を補う 努力	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n =1⇒「0.4」 n =2⇒「0.6」 n =3⇒[0.8] n =4⇒「1.0]		 □・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 □・説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 □ ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。
			円滑な業務遂行への努力	20	評価細目 $f_{xy}/$ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。 □ ・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。
			小 計	100	①		

	Ť	平価項目	評価の視点	配点	得点率 缓標準 劣	得点	評 価 細 目			
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目 f_{xy} /数 $=0$ ⇒ $[0, 2]$ n = 1⇒ $[0, 4]n = 2$ ⇒ $[0, 6]n = 3$ ⇒ $[0, 8]n = 4$ ⇒ $[1, 0]$		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □ ・打合せにおいて確認、解決すべき事項について見逃しがなかった。 □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。			
			小 計	100	1					
	成果物		目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n=1\Rightarrow$ [0.4] $n=2\Rightarrow$ [0.6] $n=3\Rightarrow$ [0.8] $n=4\Rightarrow$ [1.0]		 □・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注) 			
結果評価		艾果物の品質	的確な とりまとめ	30	評価細目fェック数=0⇒ $\lceil 0.2 \rceil$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$		・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。			
			ミスの有無	30	評価細目fェック数=0⇒ $\lceil 0.2 \rceil$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$		□ ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 □ ・誤字、脱字、表記ミス、計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスが無かった。 □ ・修正が必要なミスは無かった。 □ ・必要書類も整備されていた。			
			小 計	100	1					

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。